

令和4年(2022年)2月7日

長野県病害虫防除所

病害虫発生予察特殊報 第3号

病名：セルリー疫病（仮称）

病原菌：*Phytophthora* sp.

作物名：セルリー

1 発生確認経過

令和3年6月、南信地域の水田転換畑で栽培しているセルリー栽培ほ場、特に排水不良の箇所において、立枯れ、外葉の黄化、道管部の褐変、芯葉先端の腐敗などの被害株が見られた。

長野県野菜花き試験場で病原菌の分離、形態観察、病原性試験、遺伝子解析等を行ったところ *Phytophthora* 属菌による疫病（仮称）であることが判明した。

2 病徴

発病は定植後、間もない頃から見られる。症状は主に葉の黄化（図1）を伴う生育停滞、萎縮（図2）や道管部の褐変がみられ（図3）、カルシウム欠乏による芯腐れ症状に似た芯葉の腐敗等（図4）がみられる。

なお、本病が発病しやすい条件など特性等については、現在、県野菜花き試験場で調査を行っている。

3 防除対策

令和4年1月末現在、登録されている農薬はないため、当面、以下のような耕種的手法を徹底する。

- 市販の簡易キット（agdia社製）で簡易診断が可能なので、早期発見に努め、発病株は見つけ次第抜き取り、ほ場外に搬出し埋却等適切に処分する。
- 一般的に疫病は、排水不良により発生が助長されるので、耕盤破碎や畝（うね）を高くするなど排水対策を行う。



図1 被害の様子



図2 定植後株全体の萎縮



図3 道管部の褐変



図4 芯葉の腐敗
(カルシウム欠乏による芯腐症に酷似)

長野県病害虫防除所

TEL : 026-248-6471 (直通)

FAX : 026-248-6473

E-mail : bojo@pref.nagano.lg.jp